

2024年10月 日

各市町村長 様

各市町村議会議員 様

(陳情団体) 愛知自治体キャラバン実行委員会

代表者 森谷 光夫

名古屋市熱田区沢下町9-7

労働会館東館3階301号

介護・福祉・医療など社会保障の施策拡充についての陳情書

【趣旨】

日頃から住民のいのちと暮らしを守り、福祉の向上にご尽力いただきありがとうございます。

愛知自治体キャラバンは、2024年で45年目を迎えます。この間、子ども医療費無料制度、介護保険の住宅改修・福祉用具受領委任払い、障害者控除の認定書発行、国保料の減免制度の拡充、任意予防接種助成、妊産婦健診事業などの諸施策が実施・拡充されました。多大なご尽力をいただき感謝いたします。

しかしながら、コロナ禍で打撃を受けた住民の暮らしや生業は、異常な物価高と円安に加え、各種支援の打ち切りや貸付の返済等により負担が増えています。加えて、国保・介護・後期高齢者の保険料大幅引き上げ、後期高齢者の医療費負担の2倍化や介護保険利用料の見直しと給付の縮小、年金実質給付額が12年間で7.8%下がるなど国民の負担が深刻になっています。

また、介護保険の「訪問介護」の報酬引き下げは、訪問介護事業所の経営を圧迫し、廃止・倒産が増加し、利用者が介護サービスを制限されるなどもあり、関係者からは緊急に再改定を求める声が強まっています。さらに、健康保険証の廃止に伴う医療や介護現場での混乱や負担も大変です。

つきましては、国の制度縮小と国民負担増の影響や自治体からのご要望についても率直な意見交換を期待しております。そして、「いのち・暮らし・社会保障」の拡充を最優先にし、地域住民のいのちと暮らしを守る制度の改善のために以下の陳情項目の実施をお願いいたします。

【陳情項目】 —★印が懇談の重点項目です—

【1】自治体DX推進は、住民の福祉の増進と人権保障のために行ってください。

①情報システム標準化のもとでも自治体独自の施策を維持・拡充してください。

(回答) 情報システム標準化後も、自治体特有の課題に対する独自施策は、必要性に応じて維持・拡充の検討を進めていかなければならないものと認識しております。

②住民の手続きへのフォローや問合せへの対応、従来の申請書類を残すなど住民それぞれの事情に応じたアクセスの保障など、住民のデジタルデバインド(情報格差)への対策を講じてください。

(回答) 本市では、「東海市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進基本方針」のDX推進の視点では「誰一人取り残さない人に優しいデジタル社会の実現」を掲げるとともに、重点取組事項としても、「デジタルデバインド(情報格差の解消)対策」に取り組んでいるところです。

【2】県民の要望である、市町村の福祉施策を充実してください。

1. 安心できる介護保障

★(1)介護保険料・利用料など

①介護保険料を引き下げてください。また、保険料段階を多段階に設定し、低所得段階の倍率を低く抑え、応能負担を強めてください。とりわけ、第1段階・第2段階は免除してください。

(回答) 第9期事業計画(令和6年度から令和8年度)では、保険料段階を13段階から15段階へ多段階化するとともに、低所得段階(第1段階から第3段階)の本人負担保険料率を引き下げました。第10期事業計画に向け、給付実績の推移を考慮しつつ、介護保険事業計画推進委員会の意見を伺いながら検討してまいります。

②収入減少を理由とした減免制度の要件の、前年所得要件、当年所得減少割合および減免割合を改善してください。

(回答) 国の軽減制度とのバランスを考慮しつつ検討してまいります。

③介護保険料の低所得者への減免制度を実施・拡充してください。

(回答) 国の軽減制度とのバランスを考慮しつつ検討してまいります。

④介護利用料の低所得者への減免制度を実施・拡充してください。

(回答) 国の軽減制度とのバランスを考慮しつつ検討してまいります。

⑤施設入所時の食費、居住費の自治体独自の補助制度を創設してください。

(回答) 国の補助制度とのバランスを考慮しつつ検討してまいります。

(2)介護保険サービス

★①介護報酬引き下げ、物価高騰により苦境に陥っている訪問介護事業所に対する財政支援をしてください。

(回答) 国の制度に基づき進めてまいります。

②総合事業の現行相当サービスが必要な人には継続した利用ができるようにしてください。

(回答)現行相当サービスの利用にあたっては、対象者個々のアセスメントに基づき、自立支援に向けたケアプランを作成し、サービスを提供しております。

③福祉用具貸与の対象品目を縮小しないでください。また、要介護度にかかわらず必要な人が利用できるようにしてください。

(回答)国の制度に基づき進めてまいります。

★(3)基盤整備

①特別養護老人ホームや小規模多機能施設等、福祉系サービスを大幅に増やし、待機者の実態を把握し、早急に解消してください。

(回答)介護保険事業計画推進委員会のご意見を伺いながら検討してまいります。

②要介護1・2の特別養護老人ホーム入所希望者の実態を把握し、「特例入所」について、広報を積極的に行うとともに、希望にそうようにしてください。

(回答)特例入所が必要な方に対し、適切な広報を行うとともに、利用者の状況や希望等も踏まえて、特例入所を実施しております。

★(4)介護人材確保

①介護職員の処遇改善・人材確保のための自治体独自の施策を、利用者負担を増やさない形で実施してください。

(回答)費用負担のない施策については、積極的に検討してまいります。

②一人夜勤を放置せず、必ず複数配置できるよう財政支援を行ってください。

(回答)国の制度に基づき検討してまいります。

③8時間以上の長時間労働を是正してください。

(回答)国の制度に基づき検討してまいります。

(5)高齢者福祉施策の充実

★①中等度からの加齢性難聴者を対象とする補聴器購入助成制度を実施してください。また、加齢性難聴を早期発見するための無料検診事業を実施してください。

(回答)令和6年度より軽度・中等度難聴の高齢者に対する補聴器購入費補助事業を実施しています。加齢性難聴を早期発見するための検診を実施する予定はございません。

②サロン、認知症カフェなど高齢者のたまり場事業への助成を実施・拡充してください。その他、介護予防にかかる地域支援事業に自治体として必要な事業費を確保してください。

(回答)平成24年度から地域の見守り、日常生活の援助、サロンの実施等による交流の場の創出等を実施する地域支えあい活動登録団体に対し、交付金を支給しており、現在25団体が活動中です(令和6年7月1日現在)。また、常設の認知症カフェとして、まなぶん横須賀において、ケアラズカフェを毎週火曜日から土曜日に開催しております。)

③高齢者・障害者などの外出支援の施策を充実してください。

(回答)要介護1～5の介護認定を受けた65歳以上の方に、福祉タクシー券を年間24枚交付しています。要介護3以上の方は福祉タクシー券又はリフト付福祉タクシー券を選択することができます。障がい者の外出支援としましては、自動車改造費の補助、普通自動車運転免許取得費の補助、福祉タクシー等料金助成、移動支援、市内路線バスの無料乗車を実施しております。

(6)認知症高齢者の福祉施策の充実

①「認知症基本法」の基本理念にもとづき、地域の実情にそくした「市町村認知症施策推進計画」を作成してください。

(回答)愛知県の「あいちオレンジタウン推進計画」、国の「認知症施策推進基本計画(案)」がそれぞれ示されていることから、他自治体の動向を注視してまいります。

②認知症の人が事故を起こした時に備える「賠償補償制度」を保険料無料で実施し、さらに拡充してください。

(回答)現在、認知症高齢者等見守りネットワーク事業を実施しており、登録者のうち、在宅で生活されている方を対象に希望される方には個人賠償責任保険に加入することができます。また、保険料につきましても、市で全額負担しております。

③認知症を早期に発見して適切な治療につなげるため、名古屋市が実施している「もの忘れ検診」のような無料検診事業を実施してください。

(回答)認知症早期発見のための検診を実施する予定はございません。

★(7)障害者控除の認定

①介護保険のすべての要介護認定者または障害高齢者自立度 A 以上を障害者控除の対象としてください。

(回答)すべての要介護認定者について、障害者又は特別障害者控除の対象としております。

②すべての要介護認定者または障害高齢者自立度 A 以上の人に「障害者控除対象者認定書」を自動的に個別送付してください。

(回答)すべての要介護認定を受けた方で、対象となる方には、障害者控除の申請を行うよう、知多北部広域連合から勧奨通知を送付しております。

2. 国保の改善

★(1)保険料(税)の引き下げ

①保険料(税)の引き上げを行わず、払える保険料(税)に引き下げてください。

(回答)平成30年度より愛知県が国民健康保険の財政運営の主体となり、現在は県の枠組みの中で国保の運営を行っているところです。県は、県内国保の統一的な運営方針を示しており、その中で、国保財政を安定的に運営していくため赤字を解消・削減していく方針としております。本市としましても県の方針に合わせ、税率等の見直しなどに取り組んでいきたいと考えております。

②前年度までに積み立てられた基金や剰余金は保険料(税)の引き下げに使ってください。

(回答) 剰余金やその他繰入金を保険税の抑制に活用しながら税率や予算を算定しております。国民健康保険財政は大変厳しい状況にあるため、今後も県の方針に合わせ、税率等の見直しなどに取り組んでいきたいと考えております。

★(2)保険料(税)の減免制度

①低所得世帯のための保険料(税)の減免制度を実施・拡充してください。

(回答) 国民健康保険に関する基準等については、県内で標準化、統一化を目指していくこととして平成30年度から県単位化を始めたことから、本市としましても県の方針に合わせ、低所得者世帯のための保険料(税)の減免制度の実施は考えておりません。

②18歳までの子どもに均等割保険料(税)の減免制度を実施・拡充してください。

(回答)国民健康保険に関する基準等については、県内で標準化、統一化を目指していくこととして平成30年度から県単位化を始めたことから、本市としましても県の方針に合わせておりますが、国の動向等を注視しながら事業を進めてまいります。

③収入減少を理由とした減免制度を、均等割を含む保険料(税)全額を対象とし、前年所得要件、当年所得減少割合および減免割合を改善してください。

(回答)収入減少を理由とした減免制度について、均等割を含む保険料(税)全額を対象とし減免しているところです。前年所得要件等の変更については考えておりません。

★(3)保険料(税)滞納者への対応

①保険料(税)滞納者に対して医療機関の窓口で医療費の10割負担を課す制裁措置を行わないでください。

(回答)国民健康保険法等の改正により、国保税の納税相談に応じない長期滞納者に対しては特別療養費を支給することとなっております。これは、被保険者間の公平性及び国民健康保険制度の健全性の観点から、法に則り運用を行っていく必要がありますが、厚生労働省は、機械的に特別療養費の支給対象とすることがないような運用を市町村に求める考えで、運用方法等については今後示されると聞いております。本市としましては、国から示

される運用方針等を踏まえ、慎重に運用を検討していきます。

②保険料(税)滞納者の生活実態把握に努め、納付が困難と判断した場合は、滞納処分の停止、欠損処理などを迅速に実施してください。

(回答)国保税滞納者については、生活状況、納付状況を確認し、個々の生活実態に合った納付をお願いしております。今後、短期保険証は発行されなくなりますが、各種申請時や面談通知書の送付等により、生活実態の把握に努めます。その上で、滞納処分の停止の要件に該当する場合については、滞納処分の停止を実施しております。

③滞納者への差押えについては法令を遵守し、滞納処分によって生活困窮に陥ることがないようにしてください。

(回答)差押えにつきましては、処分可能財産がある場合に限り、処分を行っております。また、預貯金、給与等の差し押さえに際しては、国税徴収法で禁止されている差押禁止額を控除した金額を差し押さえするなどの配慮をしております。

(4)傷病手当金・出産手当金

①傷病手当金・出産手当金制度を創設してください。

(回答)新型コロナウイルス感染症に感染された被保険者に対する傷病手当金につきましては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行される令和5年5月7日までの感染分を対象にし、支給しています。そのほかの傷病による傷病手当金制度の創設については、そのための財源が必要となること等の影響があります。現在の国保会計の状況では難しいと考えております。出産手当金制度の創設につきましても、そのための財源が必要となること等の影響があります。現在の国保会計の状況では難しいと考えております。

(5)一部負担金の減免制度

①一部負担金の減免制度については、活用できる基準にしてください。

(回答)一部負担金の減免規定の拡大については、そのための財源が必要となること等の影響があります。現在の国保会計の状況では難しいと考えております。

②制度について行政や医療機関の窓口にわかりやすい案内ポスター、チラシを置くなど周知してください。

(回答)市の広報に掲載、国保課窓口でのご案内等行うことにより周知を図っております。

(6)高額療養費の申請手続を簡素化

①70歳未満を含む74歳までの高額療養費の支給申請手続を簡素化し、申請は初回のみとしてください。

(回答)令和2年5月診療分(令和2年9月案内分)から支給申請手続の簡素化を実

施しています。

★(7)資格確認書の発行

- ①保険証の新規発行を停止する2024年12月2日以降も、国民の受療権を守り、すべての加入者が安心して医療機関にかかることができるように、資格確認書は自動的に発行してください。

(回答) 保険証廃止後、マイナンバーカードを保険証と紐づけ登録していない方には、保険証の有効期限が到来するまでに、申請によらず資格確認書を送付します。

3. 生活保護・生活困窮者支援

(1)生活保護制度

- ★①生活保護の申請書は、誰もが見えるところに置き、申請権を侵害しないよう速やかに受理してください。住民向けに「生活保護は権利です」等を記載したしおりやポスターを作成して、相談窓口・公共施設などへの掲示や公報を強化してください。

(回答) 生活保護受給手続きについて、申請書は相談室の見える場所に設置しており、相談者に対しては「生活保護のしおり」を配布し、周知しております。また、課内の相談支援Gや福祉Gを始めとし、社会福祉協議会、地域包括支援センター及び各種福祉施設の職員や民生委員等と連携し、生活に困窮されている方や不安を抱えている方が、ためらわずに相談・申請できる体制を整えています。

このため、現時点では保護申請を促すためのポスター作成は考えておりません。

- ★②相談は丁寧に対応し、相談者・申請者を何度も来庁させるような「水際作戦」はしないでください。住居のない人を他自治体にたらいまわししないでください。

(回答) 生活保護は国民生活の最後の拠り所であるということを十分に認識しておりますので、面接相談においては、真摯な態度で相談に応じており、親切丁寧に法の趣旨や制度概要の説明を行うとともに助言を行っております。そして保護の必要な方には適切に対応しており、申請権の侵害は行っておりません。

- ★③扶養照会は、厚労省通知の趣旨を踏まえ、扶養照会を拒む申請者の意向を尊重し、扶養が期待できる人に限定してください。

(回答) 扶養義務者の扶養は「保護に優先して行われる」と定められており、要保護者に扶養義務者の存否を確認し、扶養照会を実施しております。要保護者等からの聞き取りの結果、「扶養義務の履行が期待できない」と判断された場合など、状況によっては扶養照会しないこともあります。基本的に扶養照会は必要なものであり、今後も実施していきます。

- ④住居のない人に対して、居宅保護原則を実現していくために、施設収容ではなく、居宅支援を充実させてください。また、生活保護施設などの「個室化」を実現して

ください。

(回答) 住居のない方で生活保護の申請をされた場合、一旦、申請者の意向を聞き取り、個室の無料低額宿泊施設に入所していただきますが、居住生活支援事業も利用しながら居宅で生活ができるよう支援しております。

⑤エアコンを全ての生活保護世帯に設置してください。また、設置しても電気代がかかるために使用を制限してしまうことのないよう夏期手当を出してください。

(回答) 新規受給者については家庭訪問による実態調査を行い、エアコンの有無の確認をし、エアコンが無い場合は基準額の範囲内で設置できるよう支援しております。また、既存の受給者はほとんどの世帯で設置されている状況であり、設置されていない方についても設置できるよう適切に支援しております。また、夏期手当については、生活保護法に支給する規定がないため、市独自で支給することは考えておりません。

⑥車の使用については、障害があるなど個別事情に配慮し、一律的な対応で生活保護が受けられなくなるようにしてください。

(回答) 一律的な対応は行っておらず、個々の状況を詳細に聞き取り、対応しております。

★⑦ケースワーカーの担当世帯数は国の標準を上回ることはないようにしてください。ケースワーカーや面接相談員は、有資格の正規職員で配置し、研修を充実してください。「ケースワーカーの外部委託化」は行わないでください。

(回答) 現在、ケースワーカーは8人で全員正規職員であり、社会福祉法で定める定数に達している状況です。また、担当者の研修については、愛知県や愛知県社会福祉協議会が主催する研修会への参加や、定期的なケース検討会議を実施し、質の高いケースワークが行えるよう、日々業務に当たっております。また、本市におきましては、現在のところ外部委託化は考えておりません。

⑧単身の女性などの相談や家庭訪問に同性が対応できるよう、女性のケースワーカーの配置を増やしてください。

(回答) 本市におきましては、現在、1名の女性ケースワーカーを配置しており、単身の女性や母子世帯等のデリケートな相談については、女性ケースワーカーに同席してもらおう等、対応をしております。

(2)生活困窮者支援

①自立相談支援は直営で行い、福祉、就労、教育、税務、住宅、水道、社会保険など様々な関係機関との連携が速やかにできるようにしてください。

(回答)本市では、生活困窮者自立相談支援事業を直営で実施し、庁内外の様々な関係機関と連携しております。

②相談員は社会福祉士など専門職員を正規職員で配置し、研修を充実してください。

(回答)現在、相談員は正規職員3名、嘱託職員1名の4名体制としております。相談

員は、国や県が実施している研修を受ける事が必須となっており、また、定期的なケース検討会議を実施することで、質の高い相談支援が行えるよう、日々業務に当たっております。

③低所得世帯に対するエアコン購入費助成事業を創設・拡充してください。

(回答)低所得世帯に対するエアコン購入費助成事業の創設・拡充については、県や他市町の状況を踏まえ、調査研究してまいります。

4. 福祉医療制度

★①福祉医療制度(子ども・障害者・ひとり親家庭等・高齢者医療)を縮小せず、存続・拡充してください。

(回答) 東海市は、県の助成制度に加え、子ども医療で18歳到達の年度末までの入通院医療費の助成など、市独自の内容で医療費助成を実施しています。

★②子どもの医療費無料制度を18歳年度末まで窓口無料で実施してください。また、入院時食事療養の標準負担額も助成対象としてください。

(回答) 東海市は、県の助成制度に加え、18歳到達の年度末までの通院医療費現物給付を実施しております。また、19歳到達の年度開始から24歳到達の年度末まで、入院医療費の助成(償還払)を実施しています。

★③精神障害者保健福祉手帳1・2級を所持していない自立支援医療(精神通院医療)の窓口負担を無料にしてください。

(回答) 東海市は、精神障害者保健福祉手帳1級、2級所持者を対象に全疾患の入通院医療費の助成、精神障害者保健福祉手帳3級所持者を対象に精神疾患の入院医療費の助成、また、自立支援医療(精神通院)対象者に精神疾患の通院医療費の助成を実施しています。

④後期高齢者福祉医療費給付制度の対象を拡大し、住民税非課税世帯は窓口負担を無料としてください。

(回答) 東海市は、県の助成制度に加え、市単独事業としてひとり暮らし高齢者、精神障害者保健福祉手帳1級、2級所持者を対象とした全疾患の入通院医療費の助成などを実施しています。

⑤妊産婦医療費助成制度を創設・拡充してください。

(回答) 東海市は、母子健康手帳の交付を受けている妊婦に対して、健やかな児童の出生を図るための医療費について助成を実施しています。

5. 子育て支援

(1)子どもの権利を守る施策の推進

①教育・学習支援への取り組みを行うとともに、NPOやボランティアなどによる児童・生徒の「居場所づくり」や「無料塾」、「こども食堂」のとりくみを支援してください。

(回答))家庭学習が十分でなく、学習習慣が身に付いていない市内在住・在学の中学生を対象にした学習支援教室を平成30年(2018年)8月から開催しております。生

徒の居場所をつくるとともに、学習習慣を身に付けることで基礎学力の向上を目指すことを目的とし、無料で学習を支援する場を市内南北2か所で提供しております。

国や県から届く子ども食堂に関する情報を、各子ども食堂運営者へ提供しています。また、子ども食堂の開設を検討している方には開設や運営にあたり利用できる補助金等の情報を集めて提供するほか、子ども食堂運営者を紹介し、開設準備や運営等の実務について教えていただいています。

②子ども家庭相談体制を整備・拡充してください。「子ども家庭センター」を確実に設置し、必要な体制を整えてください。

(回答) 令和6年4月に、東海市子ども家庭センターを設置しました。子ども家庭センターの設置に伴い、統括支援員を配置したことや児童福祉と母子保健の合同ケース会議を開催し、共同で支援する等、連携を密にとり一体的に運営する体制を整備しました。

(2) 就学援助制度の拡充

①就学援助制度の対象を生活保護基準額の少なくとも1.4倍以下の世帯としてください。

(回答) 平成25年8月に生活保護基準の見直しが行われたことを受け、就学援助を受けている世帯に影響がないよう、平成26年度より認定基準を生活保護基準の1.2倍未満から1.3倍未満に変更しております。対象基準につきましては、近隣市町の状況等を踏まえて検討してまいります。

②クラブ活動費・卒業記念品・オンライン学習通信費など支給内容を拡充してください。

(回答) 卒業記念品として卒業アルバム代を支給対象としております。また、オンライン学習通信費については、令和4年度より家庭に通信環境のない就学援助認定世帯へモバイルルーターの貸し出しを行っております。

③年度途中でも申請できることを周知徹底してください。

(回答) 年度途中でも申請できることは、ホームページや学校を通じて周知をさせていただいており、転入者や経済的に困りの方には、その都度、市役所窓口や学校から案内するように徹底しております。支給内容につきましては、近隣市町の状況等を踏まえて検討してまいります。

★(3) 子どもの給食費の無償化

①小中学校の給食費を無償にしてください。

(回答) 学校給食法(昭和29年6月3日法律第160号)第11条第2項により学校給食費は学校給食を受ける児童又は生徒の保護者(学校給食法第16条に規定す

る保護者)の負担となっております、本市として給食費を無償にすることにつきましては考えておりません。

②就学前教育・保育施設等の給食費を無償にしてください。

(回答)就学前教育・保育施設等の給食費については、国による幼児教育・保育の無償化制度を踏まえた運用を実施しており、全ての就学前教育・保育施設等の給食費を無償化することは検討しておりません。ただし、昨年度までは無償化以前の利用料負担を上回る世帯がないよう、これまで市が独自で実施してきた、年齢制限がない第3子保育料無償化の施策を、副食費にも同様に適用しておりましたが、今年度からは第2子まで拡大し、国による免除対象範囲を上回った運用をしております。

★(4)保育施策の抜本的拡充

①保育士配置基準について、国の改正基準である3歳児15対1、4・5歳児25対1を早期に確実に実現してください。すでに実施済みの市町村は自治体独自にさらなる改善を図ってください。幼児だけでなく、0・1・2歳児についても自治体独自に、公私間の格差なく、抜本的に改善してください。

(回答)公立保育園においては、国の改正基準を満たす人員配置の経過措置期間として、従来の配置基準で保育を実施している園も一部ございますが、今後の就学前児童数や入所率などを注視し、可能な限り早い時期に、全園で新たな配置基準を満たすことができるよう努めてまいります。また、1歳児及び2歳児における配置基準について、最低基準の6:1に対し、原則5:1で上乘せ配置しており、面積基準については、最低基準に準じた取り扱いとしています。また、民間保育事業所については、最低基準以上の基準を求めることは検討しておりません。

②公立施設の統廃合や民間移管をしないでください。待機児童や保留児童(隠れ待機児童)がいる場合の対策は認可保育所の整備・増設によって行ってください。

(回答)公立施設の民間への移管は考えていませんが、老朽化している施設も多くなっているため、市内の保育需要等を見据えながら、民間活力の導入を含め、適切な保育の受け皿整備について検討を進めていきます。また、民間事業者への施設整備補助を実施し、令和6年4月に新たに保育所1園が開所し、現在までに保育所3園、認定こども園2園、小規模保育事業所11箇所が開所しております。

③保育施設等への指導監査について、引き続き実地検査を原則とし、市町村として各施設の保育内容等、安全・安心な保育のための実態把握に努めてください。保育料無償化の対象とされた認可外保育施設等のうち、指導監督基準を下回る施設については、ただちに指導監督基準へ引上げるための具体的な施策を実施し

てください。また、監査を行う職員は保育士の有資格者など保育業務のわかる人を配置してください。

(回答)地域型保育事業者に対する施設監査、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業者に対する指導については、施設の開所時期に関わらず、毎年すべての施設を対象に実地指導を行っており(保育所及び幼保連携型認定こども園については、愛知県が実施する指導監査と併せて実施)、認可外保育施設については、県が指導監査を実施する際に、本市担当職員及び指導保育士が同行し、施設の実態把握に努めています。なお、上記の各種法令に基づく指導監査のほか、指導保育士等が認可外保育施設を含めた施設を定期的に巡回し、保育の実施状況について確認及び助言を行っております。また、認可外保育施設についても、愛知県が実施する指導監査への同行、指導保育士等による施設の定期的な巡回を行っており、指導監督基準を下回る施設に対しては、適合に向けて、必要に応じて適宜助言を行っております。

④育児休業を取得した場合に保育施設を退園(育休退園)にしないでください。

(回答)2歳児以上の在園児の保護者が育児休業を取得した場合について、条件はありますが、継続入所を認めております。

6. 障害者・児施策

★①自治体独自の障害者への手当を増額してください。独自手当のない自治体は設けてください。

(回答)障害程度及び収入状況に応じた手当額を設定し、公平な支給を行っており、かつ、近隣市町との比較においても平均以上の支給額となっていることから、現時点では増額の予定はありません。

②障害者が24時間365日、希望する地域で安心して生活できるよう、重度の知的障害者や車イス障害者、視力障害者らが利用できるグループホームや入所施設を拡充してください。夜間の職員体制を1フロア(ユニット)で常時複数配置できるように補助してください。医療的ケアも十分な体制が確保できるよう、常勤の看護師が配置できる独自の加算などを上乘せしてください。

(回答)グループホーム等の対象者については、新規参入の事業所や市内の社会福祉法人と相談しながら拡充を進めてまいります。夜間体制、看護師配置については、体制を整えば国の報酬の加算対象となるため、市として単独補助は考えておりません。

★③暮らしを支える障害福祉サービスは、余暇利用を含めて障害者・児が必要とする時間を支給してください。移動支援などの十分な人員を確保できるよう、基本報

酬を大幅に増額してください。

(回答) 本人や家族又は指定特定相談支援事業者が作成するサービス等利用計画に基づき必要とする時間を支給しております。

また、移動支援の単価については、障害福祉サービスの単価を参考に設定しており、現時点で増額の予定はありません。

④障害福祉サービスの利用料、給食費などを無償にしてください。また、障害福祉サービスの利用料徴収対象の収入要件を本人収入に限ってください。

(回答) 令和元年(2019年)10月から開始された幼児教育・保育無償化に伴い、小学校就学前の3年間については、児童発達支援等の障害児通所支援は利用者負担額が無償となっております。その他につきましては、現時点で利用者負担額を補助及び無償にするといった市単独の制度を実施する予定はありません。

また、障害福祉サービスの利用料徴収対象の収入要件については、国の事務要領に基づき利用者負担額を決定しております。市単独の判断基準を設ける予定はありません。(社福)

令和元年(2019年)10月から開始された幼児教育・保育無償化に伴い、小学校就学前3年間の児童発達支援サービスの利用料が無償となっております。また、市独自に低所得世帯と第三子以降の就学前児童について、児童発達支援サービス利用料及び給食費を給付しておりますが、令和6年度(2024年度)から第二子以降に拡充しております。

障害福祉サービスの利用料徴収対象の収入要件は国の事務要領に基づいており、本人収入に限るなど市独自の制度を実施する予定はありません。(こども課)

★⑤40歳以上の特定疾患・65歳以上障害者について、一律に「介護保険利用を優先」とすることなく、本人意向にもとづき障害福祉サービスが利用できるようにしてください。

(回答) 国の通知により、介護保険制度を優先しておりますが、障害者の必要性に応じ、介護保険で不足するものについて障害福祉サービスの支給決定を行っております。

7. 予防接種

★①流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)ワクチン、子どもや障害者のインフルエンザワクチン、帯状疱疹ワクチン、定期接種から漏れた人に対する麻しん(はしか)の任意予防接種について、自己負担無料の助成制度を設けてください。また、おたふくかぜワクチンは2回の助成を行ってください。

(回答) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の任意予防接種については、令和4年度から年度中に年齢が1歳に達する児に対し1回の助成を実施しております。子どものインフルエンザワクチンの任意予防接種については、平成29年度から中学3年生及び高校3年生等の接種に対して助成を実施しております。帯状疱疹ワクチンの任意予防接種に対する助成については、令和5年度から50

歳以上の未接種者に対し、助成を実施しております。
定期接種から漏れた人に対する麻しん(はしか)の任意予防接種については、実施しておりません。

- ★②高齢者用肺炎球菌ワクチン(定期接種)の自己負担を引き下げてください。市町村が実施する任意予防接種事業を再開・継続してください。また2回目の接種を任意予防接種事業の対象としてください。

(回答) 高齢者用肺炎球菌ワクチンは、平成26年10月1日からの定期接種化に伴い、66歳以上の定期接種対象者以外の方についても定期接種対象者の方と同様の自己負担額 1,100 円で接種できるようにしています。生活保護を受けられている方は自己負担額を無料としています。それ以外の方の自己負担額を無料にする予定は現在のところ、ありません。2回目の接種については、国で2回目の有効性について検討されているところであり、現在のところ、市として独自で任意予防接種の対象とする予定はありません。

8. 健診・検診

- ★①産婦健診の助成対象回数を2回に拡充してください。

(回答) 産婦健診の助成については既に平成29年8月から、2回実施しております。

- ②妊産婦歯科健診への助成を妊婦・産婦共に実施してください。

(回答) 現在、妊婦には両親学級で、産婦には月2回歯科健診日を設けています。
かかりつけ歯科医を持つ目的では個別方式が望ましいと考えますが、産婦は赤ちゃん相談の日に実施し合わせて受診ができるよう便宜を図っています。

- ③保健所や保健センターの歯科衛生士を常勤で複数配置してください。

(回答) 本市では、現在、再任用職員と2人体制で業務を実施しております。

9. 地域の保健・医療

- ①地域医療構想に基づいた安易な病床削減は行わず、地域に必要な病床数を確保してください。

(回答) 知多半島区域地域医療構想推進委員会での議論について、市としても注視してまいりたいと考えております。

- ②自治体病院の感染症予防計画における医療提供体制を充実してください。

(回答) 新興感染症の流行に際しては地域の医療機関との連携も踏まえ、必要な医療を提供する体制が確保できるよう、公立西知多総合病院への支援をしてまいりたいと考えております。

- ③自治体独自の医師、看護師等医療従事者の確保対策を実施してください。

(回答) 総合病院である公立西知多総合病院が行う医療従事者の確保や体制整備に対する支援を継続してまいります。

④保健所・保健センターの保健師等スタッフを増員してください。

(回答)保健師は毎年保健事業等の実施状況に応じて増加を要望しております。

⑤避難所のバリアフリーを進めるとともに、障害の程度、介護ニーズなどに応じた個別対応やプライバシーの確保ができるようにしてください。また、福祉避難所の設置を進めてください。

(回答)各避難所において、障がいをお持ちの方や介護が必要な方等の要配慮者の避難スペースを一般の避難スペースと分けて設置することとしており、さらに避難所に整備している間仕切りを使用することでプライベート空間の確保に努めているところでございます。

また、拠点避難所の18施設のうち、10カ所においてはバリアフリートイレが整備されておりますが、引き続き要配慮の方が安心してできるようバリアフリー化やプライバシーの確保といった観点からも避難所の整備に努めてまいりたいと考えております。

なお、福祉避難所につきましては、市内に18箇所指定しており、施設種別といたしましては、介護施設を中心とした施設の指定となっております。今後は、様々な要配慮の方が安心して避難できるよう福祉避難所の指定の拡充を図ってまいります。

【3】国および愛知県に以下の趣旨の意見書を提出してください。

1. 国に対する意見書

①国民健康保険の国庫負担を抜本的に引き上げ、払える保険料(税)にするために、十分な保険者支援を行ってください。病気や出産のときに安心して休めるよう傷病手当、出産手当を創設してください。

(回答) 保険者支援等の制度については、今後の国の動向を見ていきますが、現在のところ要望書等の提出予定はありません。

②マクロ経済スライドを廃止してください。また、年金支給開始年齢を引き上げないでください。全額国庫負担による最低保障年金制度を早急に実現してください。年金は毎月支給にしてください。

(回答) 年金開始年齢の引き上げにつきましては、年金の繰り下げ請求ができますので要望書等の提出予定はございません。マクロ経済スライドに関しては今年度に行われた財政検証を踏まえた議論の動向を、最低補償年金制度や年金支給の適切なペースについては国内議論の動向をそれぞれ見ていく段階であり、現在のところ要望書等の提出予定はございません。

③介護保険への国庫負担を増やして、負担の軽減と給付の改善をすすめてください。さらなる利用料の負担増や給付削減はしないでください。

(回答)国の制度に基づき検討してまいります。

④介護労働者の安定雇用のために処遇を改善してください。夜勤は複数配置ができるよう人員配置基準を見直し、財政支援を強めてください。

(回答) 国の制度に基づき検討してまいります。

⑤18歳年度末までの医療費無料制度を創設してください。

(回答) 令和4年4月1日より18歳年度末まで入通院の医療費を助成しております。

⑥小中学校の給食費を無償にしてください。

(回答) 国で「異次元の少子化対策」の「給食費無償化」を検討しておりますので、国の動向を注視しているところでございます。要望書等の提出の予定はありません。

⑦障害者・児が24時間365日、地域で安心して生活できる「くらしの場」が選択できるよう、グループホームや入所機能を備えた地域生活拠点を整備してください。福祉人材の人手不足を解消するために報酬単価を大幅に引き上げてください。特にグループホームの一人夜勤が解消できる基準にしてください。

(回答) 地域生活支援拠点は面的整備が令和3年3月に完了しています。現在は、5つの項目の拡充に向け、市内福祉事業所と意見交換等を行っております。夜間体制については、夜間支援体制を整えば国の報酬の加算対象となるため、市として単独補助は考えておりません。

⑧医療・介護・福祉・保育など公的価格で働くケア労働者の処遇改善を国の責任で確実に実施し、ただちに全産業平均との格差をなくしてください。

(回答) 国の施策に基づき検討してまいります。

2. 愛知県に対する意見書

(1) 子どもの医療費助成制度を18歳年度末まで実施してください。

(回答) 令和4年4月1日より18歳年度末まで入通院の医療費を助成しております。

(2) 国民健康保険への愛知県独自の支援を行ってください。

(回答) 現時点では県の動向を注視しているところでございます。要望書等の提出の予定はございません。

(3) 学校給食無償化のために愛知県独自の補助制度を新設してください。

(回答) 本市として要望書等の提出の予定はありません。

(4) 地域に必要な病床を確保し、感染症病床を増床してください。

(回答) 知多半島区域地域医療構想推進委員会での議論について、市としても注視してまいりたいと考えております。意見書等の提出の予定はございません。

(5) 地域医療介護総合確保基金について

①地域医療介護総合確保基金について、各市町村や事業所からどのような補助制度が必要か意見聴取し、実態に見合った活用ができるようにしてください。

(回答) 現時点では、本市として意見書等の提出の予定はございません。

②基金を活用し医療・介護・福祉など公的価格で働く職場への物価高騰対策を今まで以上に行ってください。特に職員処遇に関する手当を支給してください。また、保育分野にもひろげてください。

(回答) 県が実施する物価高騰対策支援金の実施状況について、市として注視してまいります。本市として意見書等の提出の予定はございません。

以上